

## 我が故郷は、文化的趣のある土地柄だったのかなあ～(12/14)



## 達筆でないのは、左利きを言い訳に

先月の誕生日に「阿部さんにふさわしいかも…」と、書に堪能な故郷の友が、篆書体の「沙明」の作品の写真を添付送信・プレゼントしてくれた。

国文、漢文、書にはトンと縁のない自分には、「沙明」の意味が分からず、友に意味を請うたところ、師走も迫りお仕事で忙しい中を返信いただいた。

【「一つのこと、深く、詳しく、愛があり、明らかであることが、素晴らしい！そこから何事も、始まるんだ…」。私なりの勝手な解釈どまりですので、ご存じの方がおりましたら、また、教えてくださいね。】

うーん、自分のどこが「沙明」にふさわしいのかなあ～。分かんない！

絵たよりに送ってくれる友、書を送ってくれる友といい、故郷の同級生は文化的だなあ～。

そんな土地柄に育ったのであれば、自分も少しはそうした趣があればいいのだが、悲しいかな、何一つそうした趣はないし……。

【 つたない作品ですが、添付します。観てくださいね。】と、この度のメールでも「守明眞」の作品(右の写真)を送信いただいた。

いやあ～、恥ずかしながら、またこの書の意味が分からず。

友に「『守明眞』意味と、これからは作品の解説をつけて送信くださいね。」と返信した(後刻、「守明眞(しゅめいしん)」は、人間としての本性を守ること」と、友から教えていただいた)。

当HPの「書籍:『人名用漢字の戦後史』を読んで(「雑学BN」の書籍等読後感関係(Ⅲ)P、2005.12.5.:参照)」で触れたように、このように漢字には「唯一無二性」の深い意味があるのだろうかあ～。

これからも友に色々教えを請いたいと思っている。正に、「持つべきものは、友なり！」

余談:自分は左利き。字は右手で書く以外、絵筆も、箸も、ハサミも、ボール投げも、全て左手。

不味い字、達筆でないのは、今も左利きを言い訳に使っている(´-´)

PC(ワープロ)の時代に、よくぞ生まれてきたもの、この時代でよかった！と、つくづく思っている。そうでなければ、手書きで文章を書いて発信するなど、恥ずかしくて、とても、とても……。

- [「雑学BN」](#)
- [「雑学・フォトアルバム」](#)

